

唾液腺病態科学特論

Advanced Course of Salivary Gland and Pathology Science

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 唾液腺疾患
- ③ 唾液診断
- ④ 唾液検査
- ⑤ 唾液バイオマーカー

授業概要

我が国の高齢化の進展は極めて急速であると共に、健康長寿の延長も進んでいる。それ故に、様々な疾患に罹患する可能性があり、唾液腺疾患を含めた病態を理解する必要がある。本講義では、唾液腺に発生する様々な疾患の病態生理学について習得することを目標にする。具体的には、(1)唾液腺炎症性疾患、(2)唾液腺腫瘍性疾患、(3)唾液腺嚢胞性疾患の講義を行い、様々な唾液腺疾患と病態生理学の関連について学修する。

授業科目の学修目標

唾液腺には、炎症性疾患・腫瘍性疾患・嚢胞性疾患・自己免疫疾患など様々な病態が発生することが広く知られている。唾液腺疾患の病態のメカニズムを詳細に知ることが出来れば、疾患の診断や簡易検査法の開発につながる。そこで本科目では唾液腺疾患および全身の健康や疾患状態との関連性に着目し、俯瞰的な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 唾液腺疾患概論 5コマ 猿田樹理
- ② 唾液腺疾患の病態メカニズム 5コマ 猿田樹理
- ③ 唾液腺と全身疾患との関連 5コマ 猿田樹理
- ④ 新規唾液検査法の開発動向 5コマ 猿田樹理
- ⑤ 唾液バイオマーカーの探索論 10コマ 猿田樹理

教科書および参考書

非侵襲的検体検査の最前線 シーエムシー出版 槻木恵一監修

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

唾液腺病態科学特論では授業項目と様々な唾液腺疾患に関わる病態メカニズムに関連する基礎および臨床研究論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 唾液腺疾患の特徴を理解し、唾液腺疾患の概要を説明できる。
- ② 唾液腺疾患の発症および病態のメカニズムを説明できる。
- ③ 唾液腺と全身疾患との関連を理解し、説明できる。
- ④ 新規唾液検査法の開発動向を理解し、説明できる。
- ⑤ 唾液バイオマーカーの探索方法を理解し、説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
60%	30%	0%	10%	0%	0%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識理解度を判定する。1回60%
- ・小テストは、授業終了後に毎回行い、知識の理解度を判定する。30回×1%=30%
- ・成果発表は、最終授業終了後に唾液腺病態科学特論で修得したことについて10分間のプレゼンテーションを行い評価する。1回10%

理想的な達成レベルの目安

唾液腺病態科学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。